

科目名	地域社会学						
英語科目	ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n)を参照					
開講期	春学期	開講学部等	現代社会学部	配当年次	2年次	単位数	2単位
教員名	滋野 浩毅						

授業概要／Course outline

本授業は、地域を様々な視点や角度から見て、考えることができるようになるために重要な理論や概念、また実際の地域における取組事例等を論じた上で、地域における諸問題について、担当教員と履修生とで対話を通して“ベストではなくともより良い解決策”を共に考えることを目的とする。地域社会の変容の歴史や、都市と農村の様式の比較、コミュニティ論といった一般的な地域の構造や過程の分析のみならず、地域における自治活動、ジェントリフィケーションや地方移住といった地域住民の居住や移動に関する問題、また自然災害が地域に与える影響や、そこにおける地域住民の復興活動といったトピックや諸問題について取り上げ、履修者とともに考える。こうした授業内容を踏まえ、その課題解決や地域特性に根ざしたより良い社会づくり、地域づくりについて理解し、当事者意識を持ったり、一歩でも行動に移すための手立てを考えられるようになることが、本授業の狙いである。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

- ・アクティブ・ラーニング授業（形態：ディスカッション、ディベート／グループワーク）
地域における諸問題について、教員と履修者が対話を行ったり、まとめの回でグループワークを行ったりする。
- ・ICTを活用した授業（形態：遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））
遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等）
- ・実務経験のある教員による授業
まちづくり・地域活性化に係るマネージャー、コーディネーター等を担当した経験のある教員が、その経験を活かしつつ、学術的な理論や学説と関連付けて講義する。

授業内容・授業計画／Course description・plan

第1回 テーマ：イントロダクション、地域とは何か。地域を学ぶ・地域で学ぶことの意味についてこの授業の目的、スケジュール、事前・事後学習の方法、教材、履修上の注意、評価の方法等の説明を行う。また、「地域」という言葉の持つ意味や概念、そして「地域を学ぶこと」「地域で学ぶこと」の現代的意味についても論じる。

第2回 テーマ：日本における「地域課題」と「地方創生」について
人口減少、少子高齢化、産業の空洞化等、日本の地域が抱えているさまざまな問題について、その背景やそうなるに至った過程について論じる。また現在、政府が進めている「地方創生」の意義や課題についても論じる。

第3回 テーマ：地域社会学に係る理論と方法について
日本の地域社会に対する社会学的研究の歩みについて概観するとともに、その中で提唱されたり議論されてきた理論や方法論について論じる。

第4回 テーマ：都市と農村の社会学① 都市の生活と文化
都市の成り立ちや都市と地方との関係や構造について、また、都市型文化や都市的生活様式の拡大とそれによって起こった都市問題について論じる。

第5回 テーマ：都市と農村の社会学② 農山林漁村の生活と文化
農村の成立や家・村の論理と農村社会の構造について、また、高度成長期以降の都市への人口流出に伴って起こった過疎化とそれに伴う地域社会の変容等について論じる。

第6回 テーマ：“町内会”は義務ですか？①
名前はよく聞けけれど、実態はよくわからない町内会。この回では、町内会の組織や役割、その歴史と現代における諸問題について講義する。

第7回 テーマ：“町内会”は義務ですか？②
第6回で講義した内容を踏まえ、“町内会”の意義と課題、そしてこれからのあり方や是非について履修者と対話する。

第8回 テーマ：京都は「若者が住めないまち」になるのか？①

京都市中心部の商業地の地価が、新型コロナウイルス流行前の訪日外国人の急増や日銀の大規模な金融緩和の影響によって、10年間で2倍前後に急騰したという。地価が上がり、高所得者しか住めなくなるような現象をジェントリフィケーションというが、まずはニューヨークやロンドン、東京といった世界レベルの大都市における事例を紹介しながら、この問題点について考えていく。

第9回 テーマ：京都は「若者が住めないまち」になるのか？②

第8回で講義した内容をもとに、「では京都における問題は何か」を履修者と議論する。ジェントリフィケーションによって今後京都で起こるであろう問題や、地域社会における影響について考えたい。

第10回 テーマ：現代の農村は「農村社会」なのだろうか？①

農村社会を特徴づける人間関係やコミュニティの構造、しきたり、働き方などは、しばしば「ムラ社会」と呼ばれ、個人の自由な行動や考えを縛るものと見なされてきた。しかし、過疎化高齢化が進展し、集落の維持そのものが困難となる地域が現れ、また、都市型生活様式や個人主義が広がる中で、農村社会は大きく変容している。第10回では、農村社会の特徴と現代におけるその変容について講義する。

第11回 テーマ：現代の農村は「農村社会」なのだろうか？②

従来の農村社会の特徴であった「ムラ社会」的なものの変容をきたしている背景と、今後の農村社会について考えていく。その要因としてUターン、都市農村交流といった、人の移動が増えたことがあるが、そのことによって、今日の農村社会ではどのようなことが起こっているのか、またこれからの農村社会はどのようなものになるのか、履修生とともに考えていく。

第12回 テーマ：災害が起こったとき、地域でできること、できないこと①

地震や水害等、大規模災害が頻発するようになってきたが、災害発生時の地域における諸活動や、その後の復旧・復興過程如何によって、その後の地域の姿は大きく変わる。とりわけ1990年代以降に起こった大規模災害とそこからの復興事例を見ながら、その過程がその後の地域に与える影響を考える。

第13回 テーマ：災害が起こったとき、地域でできること、できないこと②

地震や水害といった大規模災害時において、地域コミュニティが果たす役割は大きいですが、人口減少や高齢化、地方においては過疎化、都市部においては人間関係の希薄化といった問題は、その前提を危うくしている。この回では、「復興まちづくり」の事例を見ながら、現代の災害復興のあり方について考える。

第14回 臨時試験

第1回から第13回までの内容について試験をする（説明、答案配布・回収時間含め90分間）。

★オンデマンド 臨時試験のフィードバック

臨時試験及び授業全体の振り返りに関する90分程度の動画を、7月16日をめに配信する。

事前・事後学修／Preparation and assignments

第1回 テーマ：イントロダクション、地域とは何か。地域を学ぶ・地域で学ぶことの意味について

〔事前学修〕大学HP Moodleにアクセスし、第1回配布プリント類を参照し、授業内容を理解しておくこと（所要時間の目安：60分）。

〔事後学修〕大学HP Moodleにアクセスし、第1回レジュメを参照しながら授業内容を復習する。授業内に課した課題を次回までに行うこと（所要時間の目安：120分）。

第2回 テーマ：日本における「地域課題」と「地方創生」について

〔事前学修〕大学HP Moodleにアクセスし、第2回プリント類を参照し、授業内容を理解しておくこと（所要時間の目安：60分）。

〔事後学修〕大学HP Moodleにアクセスし、第2回レジュメ類を参照しながら授業内容を復習する。授業内に課した課題を期日までに行うこと（所要時間の目安：120分）。

第3回 テーマ：地域社会学に係る理論と方法について

〔事前学修〕大学HP Moodleにアクセスし、第3回配布プリント類を参照し、授業内容を理解しておくこと（所要時間の目安：60分）。

〔事後学修〕大学HP Moodleにアクセスし、第3回レジュメを参照しながら授業内容を復習する。授業内に課した課題を次回までに行うこと（所要時間の目安：120分）。

第4回 テーマ：都市と農村の社会学① 都市の生活と文化

〔事前学修〕大学HP Moodleにアクセスし、第4回配布プリント類を参照し、授業内容を理解しておくこと（所要時間の目安：60分）。

〔事後学修〕大学HP Moodleにアクセスし、第4回レジュメを参照しながら授業内容を復習する。授業内に課した課題を次回までに行うこと（所要時間の目安：120分）。

第5回 テーマ：都市と農村の社会学② 農山林漁村の生活と文化

〔事前学修〕大学HP Moodleにアクセスし、第5回配布プリント類を参照し、授業内容を理解しておくこと（所要時間の目安：60分）。

〔事後学修〕大学HP Moodleにアクセスし、第5回レジュメを参照しながら授業内容を復習する。授業内に課した課題を次回までに行うこと（所要時間の目安：120分）。

第6回 テーマ：“町内会”は義務ですか？①

〔事前学修〕大学HP Moodleにアクセスし、第6回配布プリント類を参照し、授業内容を理解しておくこと（所要時間の目安：60分）。

〔事後学修〕大学HP Moodleにアクセスし、第6回レジュメを参照しながら授業内容を復習する。授業内に課した課題を次回までに行うこと（所要時間の目安：120分）。

第7回 テーマ：“町内会”は義務ですか？②

〔事前学修〕大学HP Moodleにアクセスし、第7回の授業内容について十分に復習しておくこと（所要時間の目安：60分）。

〔事後学修〕第7回の対話内容を踏まえ、自らの考えを作る。授業内に課した課題を次回までに行うこと（所要時間の目安：120分）。

第8回 テーマ：京都は「若者が住めないまち」になるのか？①

〔事前学修〕大学HP Moodleにアクセスし、第8回配布プリント類を参照し、授業内容を理解しておくこと（所要時間の目安：60分）。

〔事後学修〕大学HP Moodleにアクセスし、第8回レジュメを参照しながら授業内容を復習する。授業内に課した課題を次回までに行うこと（所要時間の目安：120分）。

第9回 テーマ：京都は「若者が住めないまち」になるのか？②

〔事前学修〕大学HP Moodleにアクセスし、第9回の授業内容について十分に復習しておくこと（所要時間の目安：60分）。

〔事後学修〕第9回の対話内容を踏まえ、自らの考えを作る。授業内に課した課題を次回までに行うこと（所要時間の目安：120分）。

第10回 テーマ：現代の農村は「農村社会」なのだろうか？①

〔事前学修〕大学HP Moodleにアクセスし、第10回配布プリント類を参照し、授業内容を理解しておくこと（所要時間の目安：60分）。

〔事後学修〕大学HP Moodleにアクセスし、第10回レジュメを参照しながら授業内容を復習する。授業内に課した課題を次回までに行うこと（所要時間の目安：120分）。

第11回 テーマ：現代の農村は「農村社会」なのだろうか？②

〔事前学修〕大学HP Moodleにアクセスし、第11回の授業内容について十分に復習しておくこと（所要時間の目安：60分）。

〔事後学修〕第11回の対話内容を踏まえ、自らの考えを作る。授業内に課した課題を次回までに行うこと（所要時間の目安：120分）。

第12回 テーマ：災害が起こったとき、地域でできること、できないこと①

〔事前学修〕大学HP Moodleにアクセスし、第12回配布プリント類を参照し、授業内容を理解しておくこと（所要時間の目安：60分）。

〔事後学修〕大学HP Moodleにアクセスし、第12回レジュメを参照しながら授業内容を復習する。授業内に課した課題を次回までに行うこと（所要時間の目安：120分）。

第13回 テーマ：災害が起こったとき、地域でできること、できないこと②

〔事前学修〕大学HP Moodleにアクセスし、第13回の授業内容について十分に復習しておくこと（所要時間の目安：60分）。

〔事後学修〕第13回の対話内容を踏まえ、自らの考えを作る。授業内に課した課題を次回までに行うこと（所要時間の目安：120分）。

第14回 臨時試験

〔事前学修〕：これまでの内容の復習（所要時間の目安：180分程度）。

★オンデマンド 臨時試験のフィードバック

[事後学修] : 臨時テストのフィードバックにより、これまでの授業の振り返りをする(所要時間の目安: 180分程度)。

授業の到達目標/Expected outcome

- ・地域社会学に関する理論や概念、キーワードを理解し、使えるようになること。
- ・市民として、また地域社会の当事者として地域の課題解決に取り組むための知識やマインドが身についていること。

身につく資質・能力/Competencies to be attained

- | | |
|--------|----------------------|
| ・思考力 | 専門知識・専門技能 |
| ・幅広い教養 | 【現代社会学部 現代社会学科】 |
| ・倫理性 | ・社会学における基礎知識 |
| | ・社会学をはじめとする社会科学の応用知識 |
| | 【現代社会学部 健康スポーツ社会学科】 |
| | ・社会学における基礎知識 |

履修上の注意/Special notes, cautions

- ・原則、毎回の授業時にワークシートを作成し、提出してもらう。
- ・大学HPのMoodle上に授業で用いるレジュメや資料を提示するので授業前後に必ずアクセスすること。

評価方法/Evaluation

- ・平常点(毎回課す課題の内容や授業への積極的参加) 50%
- ・臨時試験 50%

教材/Text and materials

- ・教科書: なし。教材(レジュメ、資料等)を授業時に配布する。また大学HP Moodleにもアップする。
 - ・参考書等: 森岡清志 [編] 『地域の社会学』(有斐閣, 2008年)
 - ・参考書等: 地域社会学会編『新版 キーワード地域社会学』(ハーベスト社, 2011年)
 - ・参考書等: 紙屋高雪『“町内会”は義務ですか?』(小学館, 2014年)
 - ・参考書等: 三浦典子・横田尚俊・速水聖子編著『地域再生の社会学』(学文社, 2017年)
 - ・参考書等: 森岡清志・北川由紀彦『都市と地域の社会学』(放送大学教育振興会, 2018年)
 - ・参考書等: 山下祐介『「都市の正義」が地方を壊す』(PHP研究所, 2018年)
 - ・参考書等: 家中茂/藤井正/小野達也/山下博樹編著『新版 地域政策入門』(ミネルヴァ書房, 2019年)
 - ・参考書等: 山本努編著『地域社会学入門』(学文社, 2019年)
 - ・参考書等: 山本努編著『よくわかる地域社会学』(ミネルヴァ書房, 2022年)
 - ・参考書等: 平井太郎・松尾浩一郎・山口恵子『地域・都市の社会学 実感から問いを深める理論と方法』(有斐閣, 2022年)
- その他、授業時に適宜紹介する。

質問や相談の方法/Instructor contact

- ・研究室: 第6研究室棟 6K421号
- ・オフィスアワー: 初回授業時に連絡する。
- ・連絡先: moodleに記載するメールアドレス
- ・授業に関する質問や相談などがある場合は、オフィスアワー時に研究室を訪問するか、メールやTeams等で質問すること。